



S.Naka

THE TENNO SHO (SPRING)

第171回 天皇賞(春) (GI)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 300,000,000円 120,000,000円 75,000,000円 45,000,000円 30,000,000円
付加賞 3,150,000円 900,000円 450,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 58^{kg}、牝馬2^{kg}減

2025.5.4 京都 晴・良 芝3200^m (国際) (指定)

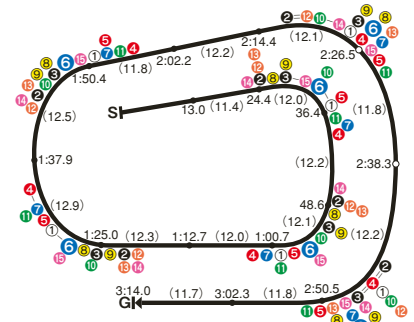
着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	ヘデントール	牡	4	58	D.レーン	3:14.0	6-7-6-5	35.3	478(-4)	3.1①	木村哲也(美浦)	118
2	⑭	ビザンチンドリーム	牡	4	58	A.シュルケ	アタマ	14-14-12-8	34.9	454(-)	11.6⑥	坂口智康(栗東)	117
3	⑤	ショウナンラフンタ	牡	4	58	武 豊	3	8-8-6-3	36.0	542(±0)	9.7④	高野友和(栗東)	114
4	③	サンライズアース	牡	4	58	池添謙一	2	4-3-2-2	36.4	530(+4)	4.5②	石坂公一(栗東)	112
5	⑪	マイネルエンペラー	牡	5	58	丹内祐次	1½	2-2-1-1	36.7	488(±0)	19.7⑧	清水久詞(栗東)	111
6	⑨	ジャスティンパレス	牡	6	58	鮫島克駿	クビ	12-12-3-3	36.6	474(±0)	4.9③	杉山晴紀(栗東)	111
7	⑨	シュヴァリエローズ	牡	7	58	北村友一	3½	11-10-9-8	36.9	468(+2)	31.4⑨	清水久詞(栗東)	107
8	③	ブローザホーン	牡	6	58	菅原明良	1	9-8-9-8	37.0	434(±0)	11.4⑤	吉岡辰弥(栗東)	106
9	②	ワープスピード	牡	6	58	横山和生	7	14-14-14-11	37.1	508(+2)	117.8⑩	高木 登(美浦)	99
10	⑦	ブラダリア	牡	6	58	松山弘平	1	2-3-3-5	38.6	476(+2)	57.0⑩	池添 学(栗東)	98
11	⑮	ハヤテフクノスケ	牡	4	58	岩田望来	2½	6-6-3-5	38.9	536(-4)	17.5⑦	中村直也(栗東)	96
12	②	ウインエアフォルク	牡	8	58	幸 英明	大差	12-12-15-15	37.6	484(+4)	278.9⑫	根本康広(美浦)	81
13	⑩	リミットバスター	牡	5	58	岩田康誠	1½	9-10-13-11	40.5	524(±0)	249.4⑬	杉山晴紀(栗東)	80
14	④	ジャンカズマ	牡	7	58	野中悠太郎	½	1-1-6-11	40.8	488(-4)	193.8⑬	西田雄一郎(美浦)	79
15	①	アラタ	牡	8	58	大野拓弥	アタマ	5-5-9-11	40.9	468(-14)	200.2⑬	和田勇介(美浦)	79

単勝⑥310円(1½^{kg}) 複勝⑥140円(1½^{kg}) ⑭290円(6½^{kg}) ⑧260円(4½^{kg}) 枠連④-⑧900円(3½^{kg})

馬連⑥-⑭1,810円(6½^{kg}) ワイド⑥-⑭680円(6½^{kg}) ⑥-⑧630円(5½^{kg}) ⑥-⑭1,690円(23½^{kg})

馬単⑥-⑭2,800円(8½^{kg}) 3連複⑥-⑧-⑭5,500円(16½^{kg}) 3連単⑥-⑧-⑭22,360円(58½^{kg})

5重勝⑥④⑦②⑥2,176,650円(336票) 対象競走: 東京10R/京都10R/新潟11R/東京11R/京都11R



通過タイム: 600^m 800^m 1000^m 上り: 800^m 600^m
36.4 - 48.6 - 1:00.7 47.5 - 35.7

アラカルト

- ・D.レーン騎手は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年初勝利、通算16勝目
- ・木村哲也調教師は天皇賞(春)初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算35勝目
- ・ルーラーシップ産駒はJRA重賞通算38勝目
- ・4歳馬の勝利は23年ジャスティンパレスに続く通算52回目
- ・8大競走を完全制覇した馬主は有サnderレーシング、金子真人ホールディングス(馬主名「金子真人氏」含む)に続いて有キャロットファームが3例目

ヘデントール Redentor

牡 黒鹿毛 2021.4.6生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南キャロットファーム 美浦・木村哲也厩舎
馬名意味・救世主(ポルトガル語)。コロコバードの丘のキリスト像より

アズテックヒルUSA系 F17-b

ルーラーシップ 鹿毛 2007	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	エアグルーヴ 鹿毛 1993	トニービンIRE ダイナカール
コロコバード 黒鹿毛 2013	ステイゴールド 黒鹿毛 1994	サンデーサイレンスUSA ゴールデンサッシュ
	エンシェントヒル 鹿毛 2001	エンドスウィープUSA アズテックヒルUSA

5代までのインブリード：Mr.Prospector S4×M5 ノーザンテストCAN S4×M5

INTERVIEW

佐々木淳史 厩舎長(ノーザンファーム空港)

理想通りの走りを見せてくれました

鞍上のD.レーン騎手は調教で跨った際の感触を伝えつつ、木村調教師とレースプランを固めていたそうです。それもあってか、スタートから理想通りの走りを見せてくれました。最後の直線で追い込んできたビザンチンドリームも育成馬です。GIの舞台で同世代の2頭が並んだ時はホースマン冥利に尽きる思いでした。2頭ともに今年はさらなる活躍を期待しています。

H.Yamanaka



代表する1頭に躍り出た。勝てたものの、2周目の向正面に差し掛かる様子が一変。日経賞の勝ち馬マインエルエンペラーが坂の上りで主導権を握り、好位を追求していた阪神大賞典の覇者サンライズアースも気合をつけられて前に迫る。さらにはジャスティンパレスも後方から進出を開始。坂の下りでは3番手まで位置を上げた。一方、ヘデントールのD・レーン騎手は冷静に中団を追走。坂の下りで差を詰め、4コーナーで外へ持ち出して追い出しにかかる。先に抜け出しをかけたショウナンラブアンタをかわしたところへ、後方でじっくり脚を溜めていたビザンチンドリームが外から強襲。勝負の行方はもつれたが、余力と勝負根性を振り絞ったヘデントールは迫られても頑として先頭を譲らず、一騎打ちに競り勝った。

ルーラーシップ産駒の本馬は新馬戦でジャスティンミラノの2着に敗れた後、未勝利、1勝クラス戦を連勝。続く青葉賞では1番人気に支持された経歴を持つ。このときは終始流れに乗れず、8着に敗れたものの、2、3勝クラス特別を連勝して挑んだ菊花賞で2着、始動戦のダイアモンドSは息の長い末脚で他馬を圧倒し、長距離適性の高さを見せつけた。変則的な展開となったこの日も、初めてコンビを組んだ鞍上と息の合った走りで見事な重賞連勝でGI初制覇を果たし、4歳世代を

父ルーラーシップ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首20戦8勝(クイーンエリザベスII世C・香^{G1}、アメリカジョッキークラブC^{G1}、日経新春杯^{G1}、金鯱賞^{G1}、鳴尾記念^{G1}、宝塚記念^{G1}2着、ジャパンC^{G1}3着)、13年から供用〔代表産駒〕ソウルラッシュ(ドバイターフ^{G1}、マイルチャンピオンシップ^{G1})、キセキ(菊花賞^{G1})、ヘデントール(本馬)、メールド格拉斯(コフィールドC・豪^{G1})、ドルチェモア(朝日杯フューチュリティS^{G1})、マストディヴァ(阪神牝馬S^{G1})、ダンビュライト(京都記念^{G1})、リオンリオン(青葉賞^{G1})、ワンダフルタウン(青葉賞^{G1})、ムイトオブリガード(アルゼンチン共和国杯^{G1})、エヒト(小倉記念^{G1})、他に重賞勝ち馬多数

母コロコバード

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央16戦5勝(湾岸S、箱根特別、丹頂S²2着、スイートピーS²3着)

パンデアスカル(20 牡父モーリス)中央16戦2勝 ②

ヘデントール 本馬(21 牡父ルーラーシップ)中央9戦6勝(天皇賞(春)^{G1}、ダイヤモンドS^{G1}、日本海S、町田特別、菊花賞^{G1}2着)
獲得総賞金486,101,000円

(22 流産)

クライストヒル(23 牡父リオンディーズ)

(24 牡父レイデオロ)

(25 牡父エビファネア)

祖母エンシェントヒル

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央7勝(ファイナルS²、仁川S²2回、トバズS²、灘S²2着)、地方0勝。22年販売不明

コロコバード(13 前出)

リカビトス(14 牡父ディーブプリランテ)中央4勝(五頭連峰特別、ハゲ岳特別)

エンシェントアイル(18 牡父ミッキーアイル)中央0勝、地方1勝

ウォーカーカップ(20 牡父サトノダイヤモンド)中央0勝、地方1勝

曾祖母アズテックヒルUSA

北米8勝(ファンタジーS^{G2}、ブラックアيدスーザンS^{G2}、ハニービーS^{G3}、ブサングS・L、サンボネットS・L、コティリオンH^{G2}2着、ハニービーH^{G3}2着)、95年輸入、04年輸出(豪)

エンシェントヒル(01 前出)

メヤンプロフェシー Mayan Prophecy(09 牡父Snitzel)豪3勝

一騎打ちに競り勝ち長距離王の座へ

昨年の覇者テオロイヤルは戦列を離れており、日経賞から始動(3着)した菊花賞馬アーバンシックスも宝塚記念へ。空位となっている長距離界の王座を争う春の天皇賞は、3000級級のステップレースでワンサイドの勝利を飾った4歳馬ヘデントール、サンライズアースと、隔年制覇に挑む6歳の雄ジャスティンパレスが中心勢力と目された。結果は4歳馬が1〜4着を独占。頭ひとつ抜けた支持を集めたヘデントールがアタマ差の接戦に競り勝ち、長距離王の称号を襲名した。

気合をつけられてスピードに乗ったジャンカズマが先導役を務めたレースは、中盤にかけて落ち着いた流れで進んだものの、2周目の向正面に差し掛かる様子が一変。日経賞の勝ち馬マインエルエンペラーが坂の上りで主導権を握り、好位を追求していた阪神大賞典の覇者サンライズアースも気合をつけられて前に迫る。さらにはジャスティンパレスも後方から進出を開始。坂の下りでは3番手まで位置を上げた。一方、ヘデントールのD・レーン騎手は冷静に中団を追走。坂の下りで差を詰め、4コーナーで外へ持ち出して追い出しにかかる。先に抜け出しをかけたショウナンラブアンタをかわしたところへ、後方でじっくり脚を溜めていたビザンチンドリームが外から強襲。勝負の行方はもつれたが、余力と勝負根性を振り絞ったヘデントールは迫られても頑として先頭を譲らず、一騎打ちに競り勝った。